

北陸新幹線南越駅周辺整備基本計画の 策定に関するパブリック・コメント資料(案)

【詳細版】

平成27年9月

パブリック・コメント資料 目次

1	駅周辺整備のコンセプト等	1
2	アクセス道路	3
3	道の駅整備の優位性	4
4	導入施設の内容	5
5	駅開業時の利用者推計	8
6	導入施設の規模	8
7	導入施設の配置計画	9
8	土地利用計画	10
9	駅舎デザインコンセプト及び駅前広場整備コンセプト	11
10	駅周辺整備のまとめ	12

はじめに

北陸新幹線金沢・敦賀間の開業及び南越駅（仮称）の開業は、平成 34 年度末）に予定されています。

旧武生市は、平成 15 年 4 月に南越駅周辺地域の将来ビジョンを明らかにした、「南越駅周辺整備構想」を策定しました。

同整備構想は、策定後 11 年が経過していることから、社会情勢の変化や将来の見通しの認識に基づき時点修正して、同整備構想を具体化する「南越駅周辺整備基本計画」を策定します。

1 駅周辺整備のコンセプト等

【基本理念】

交流促進の起点 南越駅周辺地域

～丹南地域の人・自然・伝統・文化とのふれあいによる新たな出会い～

【4つの展開】

(1) 「交流の起点 ～交通結節点と地域資源への誘導の場の創出～」

- 地域の中心に位置し、国道8号や北陸自動車道と近接する地の利を活かし、地域外から活力を呼び込む広域交通拠点（ゲートウェイ）の位置付けを確立し、2つのまちなかの交通結節点（ハブ）や地域資源へ誘導する役割を担う

(2) 「伝統・文化とのふれあい ～伝統・文化、匠の技との出会いの場の創出～」

- 越前国府 1,300 年の悠遠な時が生んだ伝統と文化、古代伝説の時代から継承と創造を繰り返す匠の技との新たな出会いを創出する役割を担う

(3) 「人とのふれあい ～来訪者と地域住民の交流の場の創出～」

- 新幹線のみならず、国道8号や北陸自動車道からの来訪者と、地域住民の新たな交流を創出する役割を担う

(4) 「自然とのふれあい ～豊かな自然を感じる、癒しの場の創出～」

- 田園や日野山など豊かな自然環境を感じとることができ、心地よい癒しの空間を創出する役割を担う

『 伝統・文化を未来につなぐ癒しと交流の空間 』

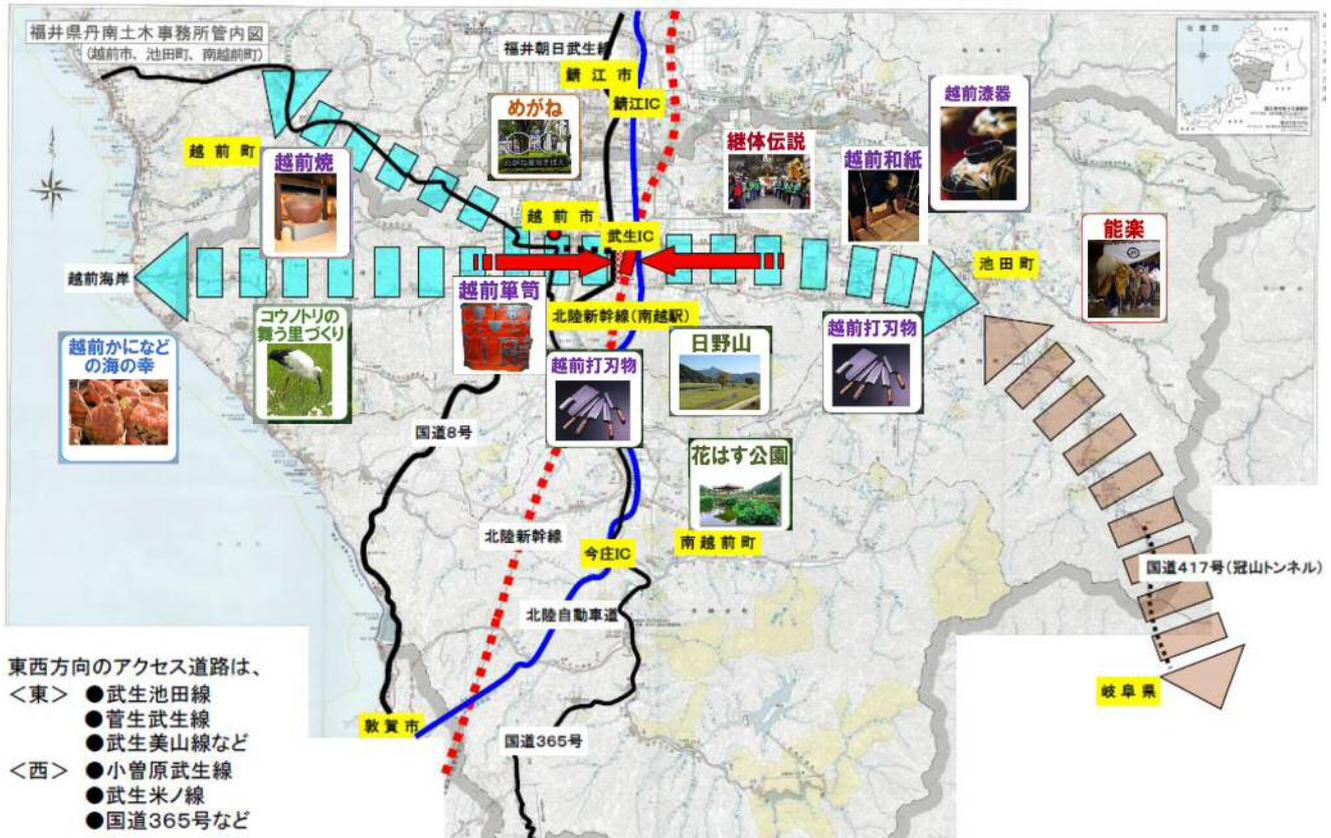
丹南地域の広域交通の玄関口となる南越駅（仮称）は、集積する伝統産業や先端産業を活かすなど、丹南地域の伝統・文化を結び付け、地域資源を再発見したり、新しい価値をもった情報を発信したりする起点として整備し、地域を活性化する空間を創出します。

また、南越駅周辺のまちづくりの主役である「地域の住民」に親しまれるとともに、訪れた人が日野山などの山並みやコウノトリが舞う里を感じ、癒される場を創出します。

さらに、国道8号や北陸自動車道武生ICが近接する広域交通の結節点といった地理的特性を活かして、新幹線利用者のみならず道路利用者の利用もできる道の駅としての機能や防災機能を持ち、賑わいや安全・安心をもたらす場を創出します。

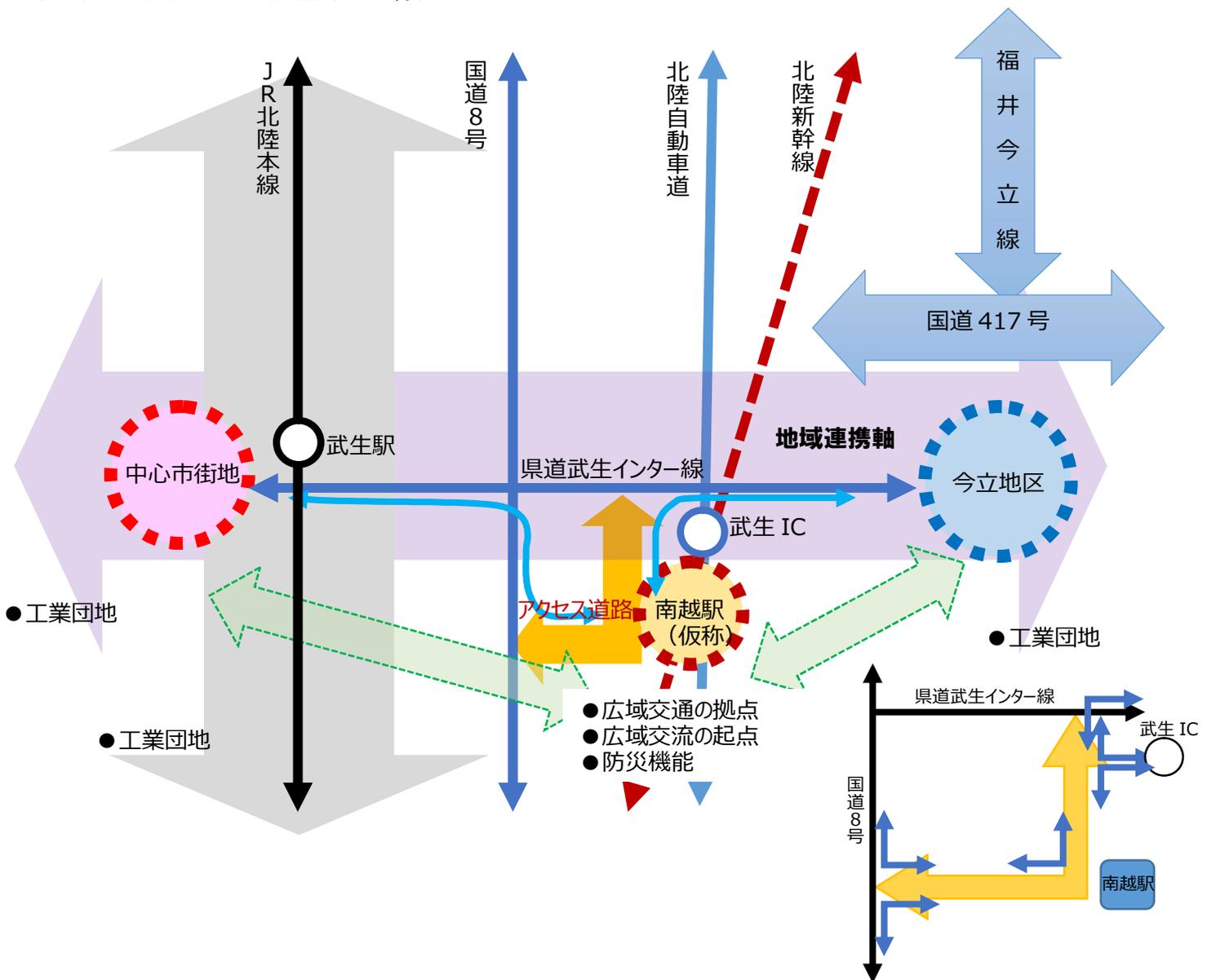
2 アクセス道路

(1) 地域連携軸と丹南地域の地域資源



- ・ 駅周辺は、北陸自動車道武生 IC、国道 8 号に近接した高速広域交通の結節点である地理的優位性を活かした広域交通の拠点
- ・ 駅周辺は、丹南広域や越前市の中心に位置し、丹南地域がほぼ駅勢圏である地理的優位性を活かした広域交流の起点
- ・ 駅周辺は、北陸新幹線、国道 8 号、北陸自動車道からなる南北の地域連携軸と、池田町・岐阜県を結ぶ国道 4 1 7 号と越前町・南越前町を結ぶ国道 3 6 5 号、武生米ノ線、小曾原武生線で構成する東西の地域連携軸があり、東西と南北の地域連携軸が交わる交通の要衝の地

(2) 動線の概念図(広域)



- ・東西アクセス道路と南北アクセス道路を同時に整備して、L型の一体的なアクセス道路網を形成することで周辺幹線道路相互を連絡する利便性の高い道路ネットワーク形成が可能となり、駅周辺が丹南地域の「広域交通の拠点」「交流の起点」「防災機能」として貢献することができます。

3 道の駅整備の優位性

駅周辺が、北陸自動車道のインターチェンジや国道8号が近接する交通結节点であることを活かした「広域交通の拠点」、地域住民と来訪者が地域の魅力を知り・楽しむことで、周辺への観光を促す「交流の起点」、多くの人々が集まる場所として、災害時の「防災機能」としての役割を果たすような整備を計画しています。

1. 自動車でのアクセスも良好な立地特性

- 南越駅(仮称)は、北陸自動車道武生 IC から南に約 0.5Km、国道 8 号から東に約 0.6Km と広域幹線道路からのアクセスが良好な立地にあります。
- これは、福井県の新幹線駅の中で最も優れた立地であり、広域交通の玄関口の形成に向け積極的に活用すべきと考えています。

(参考)最寄 IC 及び国道までの距離

福井 駅

IC まで 4.4Km(福井 IC)、国道まで 2.2Km(国道 8 号)

芦原温泉 駅

IC まで 6.1Km(金津 IC)、国道まで 4.5Km(国道 305 号)

敦賀 駅

IC まで 1.4Km(敦賀 IC)、国道まで 0.6Km(国道 8 号)



2. 丹南地域の地理的中心に位置

- 南越駅(仮称)は、丹南地域の中心に位置し、越前和紙、越前打刃物、越前筆筍、越前焼、越前漆器をはじめとする伝統産業が集積する丹南地域の観光上重要な立地にあります。



駅周辺に期待される役割

1. 広域交通の拠点

- 高速・広域交通網が近接している立地特性を活かして、丹南地域内観光におけるトランジットの際に人々が利用する玄関口として機能し、地域資源への立ち寄りを促す拠点としての役割

2. 交流の起点

- 幅広い交通手段の来訪者がアクセスしやすい立地を活かし、丹南地域へ訪れた人々に、伝統産業の魅力や奥深さ、自然や食の魅力、地域住民の活力を伝え、各地へ導く交流の起点としての役割
- 施設は駅利用者のためだけでなく、自動車利用者のための施設としても機能することで、駅前の賑わいの向上とさらなる魅力化を図ることが可能

3. 防災機能

- 震災やその他災害時において、「道の駅」は被災者支援や復興支援、避難者の受け入れ先として貢献
- 台風や大雨、冬季の暴風雪においても、「道の駅」は避難者の受け入れ先として貢献

駅舎の外に設置する情報交流会館を道の駅として整備する

4 導入施設の内容

(1) 開業時に求められる施設機能

① 地域の価値や魅力を向上させるゲートウェイ施設

地域を訪れた人が最初に訪れるゲートウェイとなり、地域の総合窓口として、クラフトツーリズム（仮称）やグリーンツーリズム等の観光受付窓口の設置や、観光にとどまらず知的好奇心を刺激する機会を提供したりして、地域の価値や魅力を向上させるとともに、地域資源に誘導する着地型観光の受入基地として機能する施設

② 匠の技にふれあえる伝統産業交流施設

③ 伝統産業製品を購入できる物販施設

各地に点在する伝統・文化、匠の技に触れる機会を提供して、地域の価値や魅力を向上させるとともに、人の交流によって新しい価値や魅力が創造できる場として機能する施設

④ 地域の特産物や加工品を購入できる物販施設

⑤ 地域の食材や加工品を味わえる飲食施設

コウノトリが舞う里で育った特産物や加工品を来訪者や地域住民が買い求めたり味わえたりして、楽しめるとともに、特産物を通じて、来訪者と地域住民の交流の機会を提供したり、地域のコミュニティが活性化したりする場として機能する施設

⑥ 地域のイベント等を開催できる多目的広場

- ・ 地域住民や大学等、地域の団体のイベント会場となったり、各地のイベントのサテライト会場となったりして、駅周辺に賑わいを添えたり、イベントの魅力を伝えて本会場に誘導したりできる場として機能する施設
- ・ 災害時は交通結節点を活かした防災機能が発現するような施設

⑦ 来訪者や地域住民がやすらぎ癒される修景施設

散策や休息にいざなって、やすらぎ癒される魅力的な空間であるとともに、駅周辺の施設を緩やかにつなぐような修景として機能する施設

⑧ (オプション)コウノトリが舞う里や新幹線を眺められる展望

隣接する里山を活用し、日野山などの山並みやコウノトリが舞う里、その風景の中を走り抜ける新幹線を眺められる心地よい展望空間として機能する施設

道の駅としての施設

修景施設

(2) 施設の活用イメージ

① 地域の価値や魅力を向上させるゲートウェイ施設

【活用イメージ】

- 多メディアや多言語に対応した地域情報やイベント情報を案内
- 地域の史実・文化などをテーマに地域の観光資源をパッケージ化して提供し、着地型観光を促進、地域への波及効果を拡大
- 道路交通状況や地域資源へのアクセス情報の案内窓口
- 休憩場所の提供
- レンタカーサービスの提供



② 匠の技にふれあえる伝統産業交流施設

【活用イメージ】

- 伝統産業製品や和紙などを活用して制作されたアーティスト作品の展示
- 製作などの体験イベントの提供
- 地域住民の作品展示や様々な活動の場として気軽に使える多目的スペース



⑤ 地域の食材や加工品を味わえる飲食施設

【活用イメージ】

- 田園や山並みを眺めながら味わう郷土料理や地域の特産品を活用したメニューを通し、地域の食の魅力を体感
- 食をテーマとした地域内観光の発信拠点としても活用



⑥ 地域のイベント等を開催できる多目的広場

【活用イメージ】

- 地域のイベントのメイン会場及びサテライト会場として利用し、駅周辺のにぎわい創出及び地域内のイベント会場への来訪を誘発
- 地域住民や来訪者の憩いの場やイベント会場として利用
- 交通結節点を活かした災害時の防災機能の発現



③ 伝統産業製品を購入できる物販施設

【活用イメージ】

- 伝統産業の商品や作品の販売を通じたブランドイメージの発信や販路拡大



④ 地域の特産物や加工品を購入できる物販施設

【活用イメージ】

- 地域の食材や加工品、土産物の販売
- 生産者や地元企業等と連携したオリジナル商品の開発、販売



⑦ 来訪者や地域住民がやすらぎ癒される修景施設

【活用イメージ】

- 四季の花を感じられる散策空間
- 駅舎と周辺の施設、周辺の自然を緩やかにつなぐ修景的な施設



⑧ (オプション) コウノトリが舞う里や新幹線を眺められる展望

【活用イメージ】

- 周囲の山並みやコウノトリが舞う里、その風景を走り抜ける新幹線を眺める展望空間



5 駅開業時の利用者推計

- ・南越駅周辺整備構想（H15.4）では、東京～南越間が開業された後の代表年次を、平成12年から20年後の平成32年、南越～大阪間が開業された後の代表年次を平成42年と想定して、利用者数を推計しました。
- ・今回は、直近の統計をもとに整備構想で採用した「在来線利用客を基本とした推計方法」により、金沢～敦賀間が開業する平成37年の利用者数を推計します。なお、今回の推計に当たっては、F G Tの導入により、新幹線と在来線が直通運行できることを前提とし、推計を行うものとします。

	平成37年（駅開業時）
(1) 在来線からの転換利用者数	1,364人
(2) 自動車からの転換利用者数	334人
(3) 新幹線開業による誘発利用者数	234人
合計	1,932人
駅開業時の利用者推計	2,000人

【参考】 南越駅（仮称）の駅勢圏人口 155,211人

6 導入施設の規模

道の駅としての施設や修景施設に加え、新幹線開業に伴い必要となる駅前広場やパーク＆ライド駐車場を整備します。導入施設の規模等について、駅開業時の利用者推計や先行事例等を参考にするとともに、駅前広場等の施設は駅西側に、パーク＆ライド駐車場は駅東側に配置します。

駅西側 (約2.3ha)	■ 駅前広場 (4,800㎡)
	■ 道の駅としての施設 (8,000㎡)
	■ 多目的広場 (3,000㎡)
	■ 修景施設 (7,000㎡)
駅東側 (約1.8ha)	■ パーク＆ライド駐車場 (18,000㎡)

7 導入施設の配置計画

周辺整備コンセプトとの整合性及び歩行者・自動車動線を配慮して配置パターンを評価

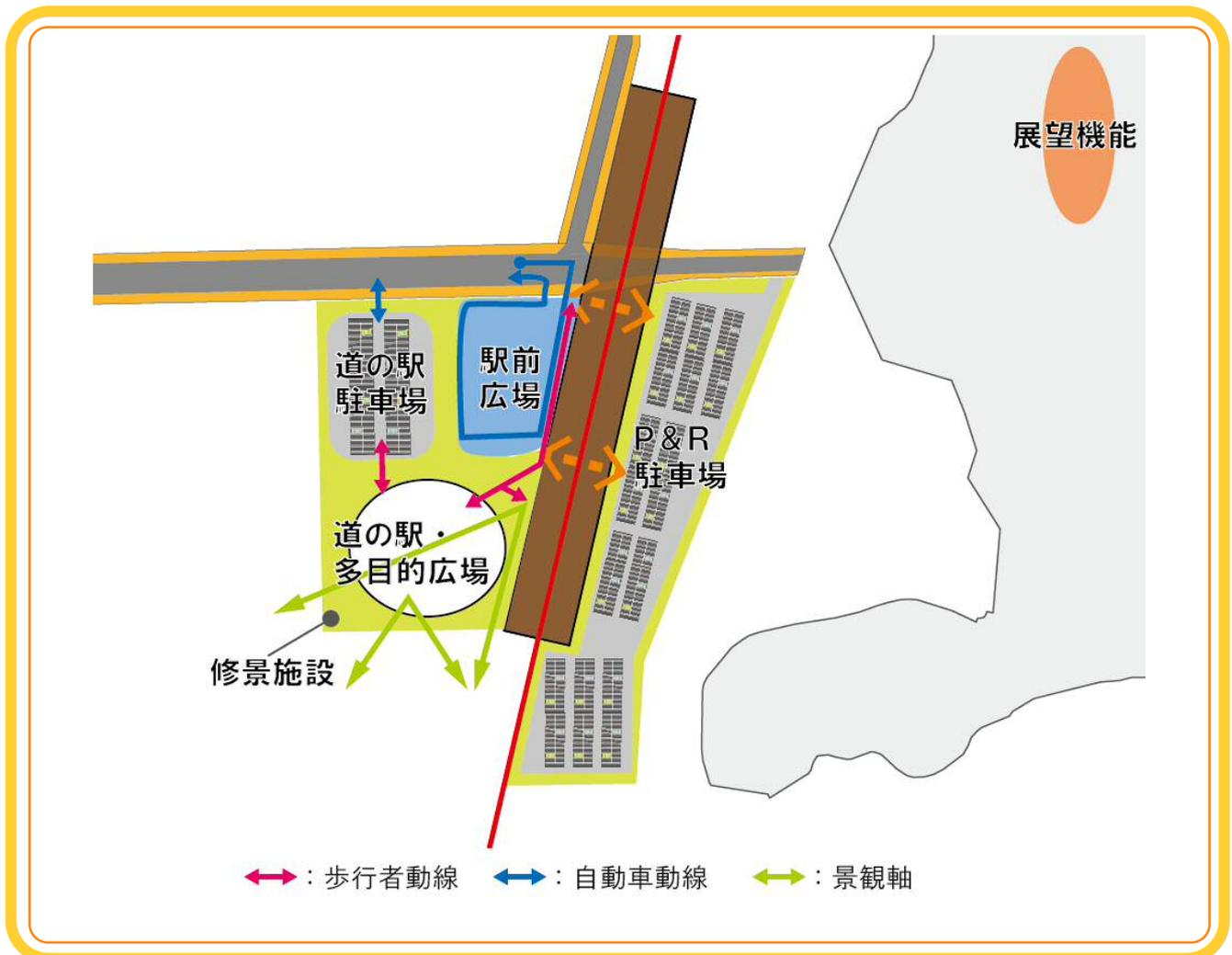
■ コンセプトとの整合性

【配置のポイント】

- 道の駅としての施設と多目的広場、修景施設をまとめて配置
- 駅コンコース（出入口）からの来訪者が、緑を感じながら日野山や田園を眺められる配置
- 道の駅としての施設や多目的広場の利用者が、日野山などの山並みやコウノトリが舞う里、その風景の中を走り抜ける新幹線を眺められる配置
- コンコース（出入口）からの来訪者が、自然の中に降り立ったように感じられる配置

■ 動線への配慮

- 歩行者動線が、車道によって分断されない配置
- 駐車場が、アクセス道路からわかりやすく、駐車しやすい配置



8 土地利用計画

【現況】

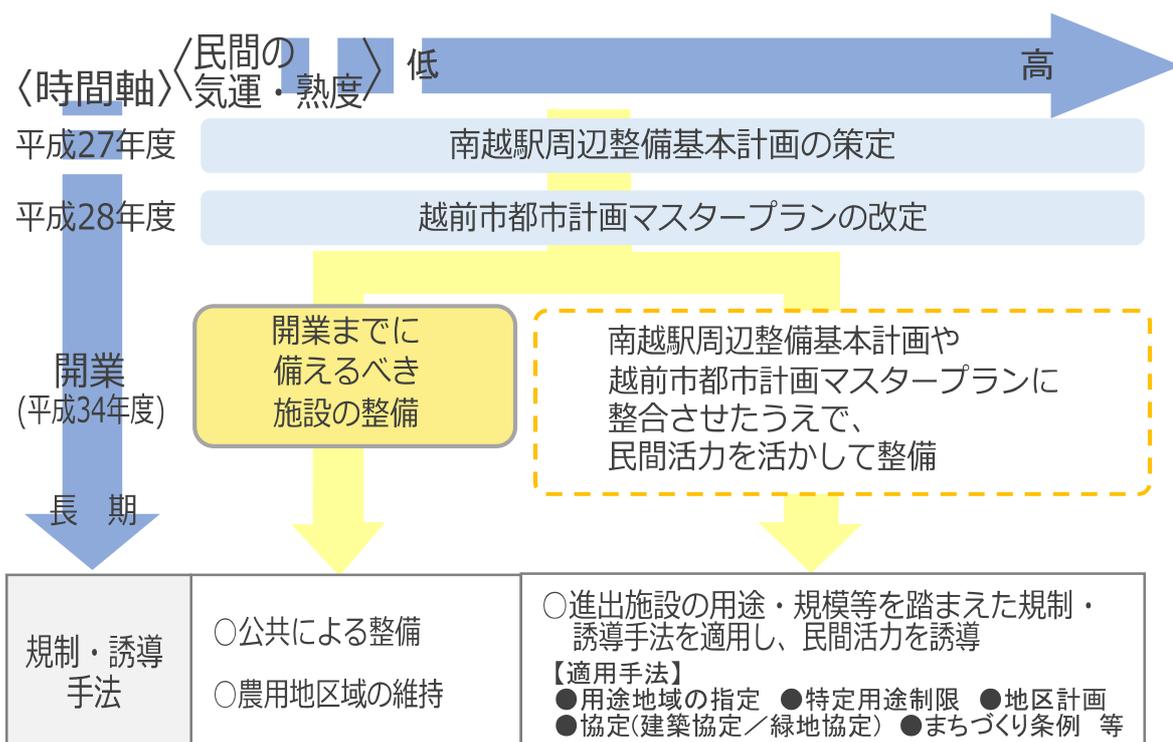
- 農用地は幹線用水路の受益地(当面農地利用が必要)
- 用途地域指定区域(県道武生インター線沿道)の土地利用が可能
- 駅周辺における具体的な民間開発は現時点でみられない

【社会情勢】

- 人口減少社会
- 持続可能なコンパクトシティの形成と各地域間の連携強化
(ネットワーク型コンパクトシティ)
- 平成 28 年度に改定予定の都市計画マスタープランとの整合



- 開業までに備えるべき施設(アクセス道路、駅前広場、P & R 駐車場、道の駅としての施設、修景施設)を「先行的に整備する区域」、その他の区域を「社会情勢を見据えながら整備を検討する区域」として定めます。
- 「先行的に整備する区域」については公共が整備し、整備にあたっては公共の整備に見合い、かつ周辺地域に影響を与えないような手法を用います。
- 「社会情勢を見据えながら整備を検討する区域」については、民間活力の気運や熟度の高まりを見定めて、ネットワーク型コンパクトシティの概念や平成 28 年度に改定予定の都市計画マスタープランと整合させながら、進出施設に必要な用途や規模に応じた規制・誘導の手法を適用して、民間活力の誘導を行います。
なお、アクセス道路の沿道については、先進団体の事例を参考に最小かつ限定的な区域において、規制・誘導の必要性や手法の検討を行います。



9 駅舎デザインコンセプト及び駅前広場整備コンセプト

(1) 駅舎デザインコンセプト(案)

キーワード 「伝統・文化を未来につなぐ」



残したい、つなげていくべき越前市及び丹南地域の伝統・文化

- 集積する伝統産業
- 育まれた伝統の技
- 連綿と受け継がれた文化
- 豊かな自然
- 国府としての歴史

『伝統・文化を未来につなぐシンボルとしての駅』

(2) 駅前広場整備コンセプト(案)

交流促進の起点にふさわしい、
駅周辺と一体となった交通結節空間



駅前広場の整備方針 (案)

■ 来訪者をもてなす『動』の空間

- 利便性・快適性・質の高い公共交通施設の整備
- わかりやすく円滑な交通処理機能を有した交通広場
- 玄関口にふさわしい記憶に残るシンボリックな空間

■ 自然と調和した『静』の空間

- 丹南地域の玄関口にふさわしい品格とゆとりのある駅前広場
- 道の駅としての施設や駅舎、修景施設、周囲の風景と調和した空間
- 来訪者が憩え、うるおいのある環境空間

10 駅周辺整備のまとめ



駅周辺整備コンセプト

『伝統・文化を未来につなぐ癒しと交流の空間』

駅前広場整備コンセプト

『交流促進の起点にふさわしい、
駅周辺と一体となった交通結節空間』

来訪者をもてなす『動』の空間
自然と調和した『静』の空間

駅舎デザインコンセプト

『伝統・文化を未来につなぐシンボルとしての駅』